

令和元年6月10日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03041

研究課題名(和文) モニョミジ・システムの人類学的研究：南スーダンにおける小政体、民族間関係と国家

研究課題名(英文) Anthropological studies on the "monyomiji system": Small polities, inter-ethnic relations and state in South Sudan

研究代表者

栗本 英世 (Kurimoto, Eisei)

大阪大学・人間科学研究科・教授

研究者番号：10192569

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、南スーダン南東部の10以上の民族集団を横断して存在する、階梯式年齢組織と首長制・王制がセットになった「モニョミジ・システム」及びこのシステムの構成単位である小政体に関する民族誌学的研究を遂行した。政治情勢の不安定性のゆえに現地でのフィールドワークはできなかったが、首都ジュバ、およびウガンダとケニアに難民として居住する地域出身者や関係者にインタビュー調査を実施するとともに、本研究課題に関連する各国の研究者との打ち合わせと討議を行った。本システムに関する人類学的理解が深まっただけでなく、平和構築と和解の実現と、新国家・国民の建設において本システムは果たすべき役割について検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南スーダンをはじめとする東・北東アフリカの諸国では、公式的には脱植民地期の国民国家による統治が浸透する一方で、国家による実質的な統治を受けていない広大な空間が存在する。こうした空間では、首長制、王制や年齢組織等を主要な社会的柱とする小政体が、政治的権力を担い、法と秩序の維持に貢献すると同時に、紛争の主体となっている。こうした空間を「アフリカ版ソミア」と捉えることは、人類学的比較研究上の意義があるとともに、武力紛争や内戦における、さらには平和構築と和解、内戦終結後の国家・国民建設における自律的な小政体の役割を考察する上で重要であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The object of this research project is the "monyomiji system," a graded age-set system coupled with chieftaincy or kingship that can be found in about a dozen of ethnic groups in the southeastern part of South Sudan. It is a unique political system that still functions in the context of weak or collapsed state, and has positive potentials for the substitution and complementation of the government administration. As the fieldwork in the area was not possible because of insecurity, interviews were conducted in Juba, and in Uganda and Kenya. Discussions with a number of related researchers of various countries were also conducted. Ethnographic studies were carried out to find out the anthropological significance of this unique system and the possibilities of its role in the process of peace-building and reconciliation as well as in state and nation building were examined.

研究分野：文化人類学

キーワード：モニョミジ・システム 年齢組織 民族間関係 南スーダン 小政体 ソミア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1970年代末に南スーダンにおける人類学的フィールドワークを開始し、今日まで継続している。研究課題の主要な柱のひとつが「モノヨミジ・システム」である。2005年のスーダン内戦終結に伴う戦後復興期における社会・経済的変動、そして南スーダン独立後の新たな内戦状況(2013年12月～)のなかで、モノヨミジ・システムは変容しつつ、新たな政治的意味合いを付与されている。この動態を人類学的に解明することが、本研究課題開始の第一の動機であった。

研究代表者は、共同研究者である人類学者シモン・シモンス博士と協働して、2011年に現地で「モノヨミジ国際会議」を開催した。この会議の成果を検討しつつ、さらにこの研究課題に関連する研究を行っている研究者たちと連携しつつ、戦後復興や平和構築と和解に、モノヨミジ・システムが果たしうる積極的な役割を検討することが、第二の動機であった。

2. 研究の目的

本研究計画の第一の目的は、南スーダン南東部の10以上の民族集団を横断して存在する、階梯式年齢組織と酋長制・王制がセットになった「モノヨミジ・システム」及びこのシステムの構成単位である小政体を民族誌学的に詳細に記述・分析することによって、長い歴史のある南スーダン民族誌に新たな知見をもたらすことである。第二の目的は、この民族誌に基づき、新国家・国民の建設における小政体の実践的な役割について考察し、さらに分節国家論と「アフリカ版ゾミア」に関する議論と接続することによって、政治人類学的研究の展開に貢献することである。

調査研究対象地域は、北東アフリカから中部アフリカに至る、国家による統治が希薄な広大な地帯のほぼ中央部に位置する。反乱の温床であるとともに開発の困難なこの地域は、人類学的に重要である。本研究の最終的な目標は、本地域の調査研究を通じて「国家と社会との乖離」という課題を考察することである。

3. 研究の方法

人類学的なフィールドワーク(参与観察とインタビュー)が主要な方法である。ただし、南スーダンの政治情勢の不安定性のため、現地におけるフィールドワークは実施できなかったため、南スーダンの首都ジュバ、およびケニアとウガンダで、モノヨミジ・システムの地域の出身者および関係者に対するインタビューを実施した。また、これらの場所で実践されている階梯式年齢組織の集まりや行事に参加した。

上記と併せて、研究課題に関する文献の研究を行うとともに、問題関心を共有するイギリス、オランダ、ドイツの研究者との討議と打ち合わせを実施し、その内容を研究成果に反映させるように試みた。

4. 研究成果

研究期間中に、本研究課題に係る諸論考を学術雑誌や論文集に投稿し公刊するとともに、研究集会等における研究発表を行った。なお、今年度以降、学術雑誌に投稿する研究成果報告の論文を準備中である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

栗本英世、ナショナル・アイデンティティとパン・アフリカニズム 南部スーダン人にとっての意義、ナショナル・アイデンティティを問い直す、査読無、2017年、341-384

栗本英世、ローカル/ナショナル/グローバルの往復運動 南スーダンの人類学的研究から見えてきたこと、適塾、査読無、2017、107-126

Eisei Kurimoto, Anywaa, Ethiopis: History, Culture and Challenges、査読無、2017、86

栗本英世、政治・紛争・暴力、詳論 文化人類学、査読無、2018、120-132

栗本英世、難民を生み出すメカニズム 南スーダンの人道危機、難民問題と人権概念の危機、査読無、2017、64-83

栗本英世、生産にかかわる在来の知識と技術、生産と技術、査読無、69(2)、2017、1-2
<http://seisan.server-shared.com/69-2-pdf.html>

栗本英世、日本では議論されない南スーダン「絶望的な現状」、現代ビジネス、査読無、2017
<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/51265>

栗本英世、南スーダン、政治問題を民族問題に変換した「悪魔の選択」、現代ビジネス、査読無、2017

<http://gendai.ismedia.jp/articles/-/51326>

栗本英世、緊迫するスーダン情勢を考える、アジア記者クラブ通信、査読無、290、2017、2-11

栗本英世、日本の多文化共生の限界と可能性、未来共生学（特集 共生と多文化主義の比較研究に向けて）査読有、3、2016、69-88

栗本英世、平和の名前、未来共生学、査読無、3、2016、462-466

〔学会発表〕(計3件)

Kurimoto, Eisei、Does International Humanitarianism Assume the Universal Humanity?: Undermining the African Potentials in South Sudan、The 4th WSSF 2018, Kyushu University (国際学会) 2018

栗本英世、南スーダンに平和は実現するか 和平合意(R-ARCSS)署名後の課題と展望、外務省第四国際情報官室研究会(招待講演) 2018

栗本英世、南スーダン情勢と自衛隊派遣、アジア記者クラブ(招待講演) 2016年10月22日、専修大学

〔図書〕(計5件)

栗本英世、大阪大学出版会、調査研究の中立性から『かわりあい』へ フィールドにおける助ける、助けられる関係から考える(渥美公秀・稲場圭信、大阪大学出版会、シリーズ人間科学2 助ける) 2019、257+6(23-45)

栗本英世、繰り返される強制的移動と開発 エチオピア西部ガンベラ州における集村化と土地収奪(石井正子ほか、晃洋書房、移動する人々) 2019、277+vi(158-207)

Samson S. Wassara and Eisei Kurimoto、Langaa, Chapter 4 Negotiating Statehood: Handling the Crisis of South Sudan (Yntiso Gebre, Itaru Ohta, Motoji Matsuda (eds), African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions), 2017, 432+xvi(107-140)

DOI: 10.2307/j.ctvh9vwxv.6

栗本英世、大阪大学出版会、「序 共生学はなにを目指すか」「『敵』との共存 人類学的考察」(河森正人、栗本英世、志水宏吉(編)『共生学が創る世界』) 2016、289(1-16、105-118)

栗本英世、京都大学学術出版会、「紛争解決と和解への潜在力の諸相」(遠藤貢(編)『武力紛争を越える せめぎ合う制度と戦略のなかで』(シリーズ総編者 太田至「アフリカの潜在力」第2巻) 2016、350(79-111)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。